外国の人や文化に興味を持ち、正しく知ろうとする

氏名：半澤　敦司　　学校名：福島県伊達市立梁川小学校

担当教科：特別支援学級担任　　実践教科：道徳科、総合的な学習の時間、社会科

時間数：4 時間　　対象学年：6 学年　　人数：29 名（協力学級で実施）

【実践概要】

【1】単元(活動)名：

道徳科：世界の人々と共に　「フーバーさん」【11月】

総合的な学習の時間：「国際親善について考えよう」【11月】

社会科：「世界の未来と日本の役割」～現地に根付いた支援～【2月】

道徳科、総合的な学習の時間、社会科

【2】単元目標：

〇　国際親善のために大切なことを理解し、自分にできることを考える事ができる。

- 互いの国をよく知り、認めあうことが国際親善につながることが分かる。【道徳科】
- 多様な角度から捉え、考える事ができる。【総合的な学習の時間】
- 国際社会における日本の役割について理解することができる。【社会科】

関連する学習指導要領上の目標　※小学校学習指導要領より

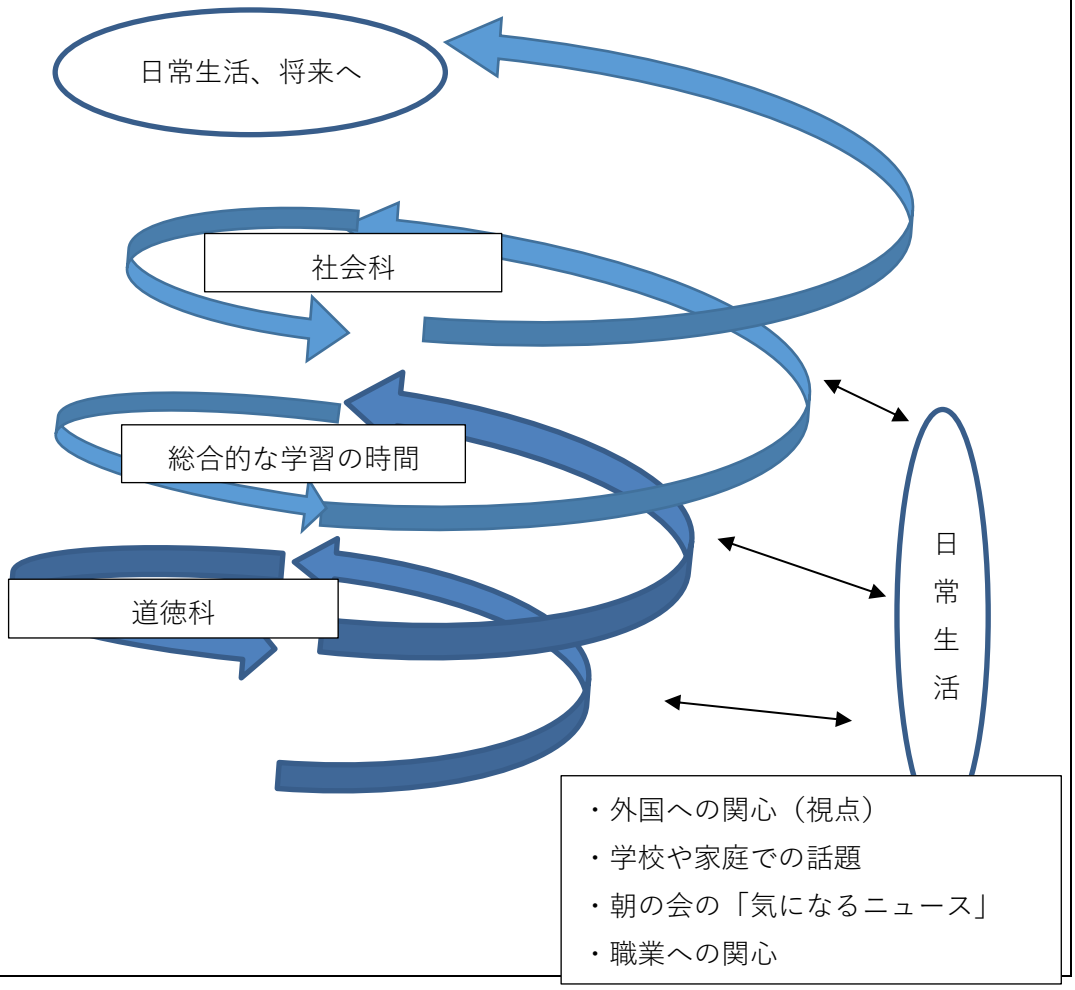
〇他国の人々や文化について理解し，日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。

【特別の教科　道徳　第２内容Ｃ主として集団や社会との関わりに関すること［国際理解・国際親善］〔第５学年及び第６学年〕】

〇実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で解題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。【総合的な学習の時間　目標（２）】

〇～我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解するとともに～。【社会科　第６学年目標（１）】

【3】単元の評価規準	①知識及び技能	・国際社会における日本の役割を理解することができる。
	②思考力、判断力、表現力等	・タンザニアの写真やエピソードを通して、日本との相違点や共通点といった視点から情報を分析したり、友達と考えを交流させたりすることができる。
	③学びに向かう力、人間性等	・国際親善で大切なことは何か考えることができる。

【4】 単元設定の理由・単元の意義(児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 今回は、道徳、総合的な学習の時間、社会科を横断する大単元で構想した。国際理解や国際親善の要素を扱った学習内容は、道徳をはじめ、国語、社会科等、各教科に、ある。しかし、各々の単元での学びが点としての存在で終わってしまうように感じ、点在する学びが線でつながるようにしたいと考えた。 そこで、道徳科の国際親善をテーマとした教材を起点に、その学びを総合的な学習の時間で活かし、社会科で発展させるという構想をした。このように教科を横断した捉えで学習を展開することで、子ども達の国際理解・国際親善という学びに一貫したつながりをもたせることができるのではないかと考える。 児童は、テレビなどをよく観ている。特に、話題性のある人物や出来事などについては、よく認識しているが、その背景などについては、関心が向いていない。メディアの情報をそのまま鵜呑みにしており、自分が外国を捉える際の視点を持ち合わせていない。 本単元は、児童が今後、グローバル化する社会を生きるための基礎となる内容と捉えている。自分は外国をどう捉えるのか、自分のことをどう発信するのか、世界の人々と共に生きていくために日本では、だれが、どのような活動をしているか等、これまでに関心の向いていなかった見方・考え方に触れさせ、外の世界への扉を開けるきっかけとしたいと考えて本単元を設定した。 

	【単元の意義】 　本単元の意義は、児童の他国あるいは他者への見方、考え方を豊かにすることにある。道徳科においては、他国をよく知ることの大切さを学び、多面的な見方を知る。その見方、考え方を生かして総合的な学習の時間では、タンザニアという国に触れる。そして、社会科では、世界の中での日本の役割というまた別の視点からタンザニアを捉える。このような学びを経験することで、国や人、物事を一面的にのみ捉えてしまうのではなく、多面的に捉えることのよさを実感できるのではないかと考える。 【児童／生徒観】 　児童がもつ外国についての知識やイメージは、テレビなどメディアの影響を受けていることが多い。話題になった外国の政治家や芸能人など、なぜ知っているのかを問うと、「テレビで観た。」という答えが多く、テレビ番組の意図したイメージをそのまま抱いているようであった。外国についての知識は、未学習のため多くはないが、外国への興味は高く、いろいろな事を知りたがる傾向がある。 　また、児童は、これまでに各教科等を通して様々な学習形態で学びを積み重ねてきている。しかし、特定の児童が意見を発表する傾向があり、多くの児童が進んで自分の考えを述べるようになることが期待される。 【指導観】 　本単元の指導に当たっては、児童が自分の見方・考え方に自信を持つこと、そして見方・考え方が豊かになるよう指導を展開していきたいと考える。 指導に当たっては、単元の意義を踏まえ、以下の点について配慮していきたい。 ○　分かりやすさ 　支援学級児童も含む交流及び共同学習となることや学級の実態から、目標や内容がどの児童にとっても分かりやすいようにしたい。そのために、視覚教材の活用、簡潔な目標と活動内容の設定、端的な指示や言葉掛けを行っていきたい。 ○　安心できる学習環境 　些細な気付きでも自ら言葉に発することを強く価値づけていきたい。そのためには、小まめに称賛をしていきたい。小さなつぶやき、考え込む姿、友達に疑問を投げかける姿など、学びに向かう姿を見逃さないようにしたい。認められることで、安心して自分の考えを口にすることができるようになることを期待している。 ○　自らの気付きを引き出す工夫 　児童の気付きを引き出して、言葉にさせたい。そのために、グループでの活動を設定する。児童がどのように考えてよいかわからなくなったとき、友達の発言が手がかりとなることがあるであろうと考える。友達の発言に付け加えるという形で発言の機会が生まれるのではないかと考える。また、写真を見るに当たっては、タブレットを使用する。タブレットは、拡大したり、焦点化したりするなど、児童のひらめきで思わぬ気付きが期待されるからである。

【5】単元計画（全４時間）

時	『小単元名』 学習のねらい	学習活動	資料など
1	『世界の人々と共に「フーバーさん」』 国際親善のために大切なことは何か考えることができる。	○　教材の途中までを読み、和子の気持ちの変化について、表情を描き込むことで自分なりに考え、友達と考えを交流する。 ○　国際親善で大切なことは何か話し合う。 いいところも、そうじゃないところも知って仲良くなる。 ○　和子とフーバーさんは、最後に握手をしただろうか？ なんとなく、気まずい雰囲気だったから握手はしないんじゃないかな。 本当のスイスを教えてくれてありがとうって握手すると思う。 ○　振り返りをする。 和子は、自分が知らなかったスイスのもう半分を知らされたことを前向きにとらえたんだね。 国じゃなくて、自分の隣の人と考えたとき、どうだろう？どれくらい知ってるかな？	・　教材の話題となるスイスについて、事前に概要を知らせておく。 ・「国際親善」という言葉の意味を導入時に確認する。 ・ワークシート

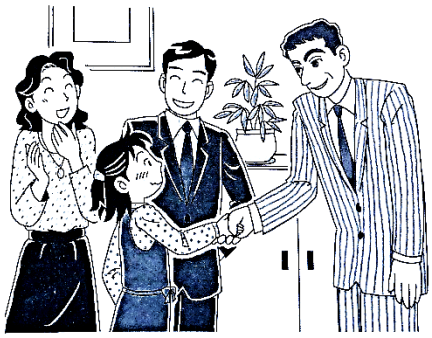
道徳教科書（東京書籍６年）より

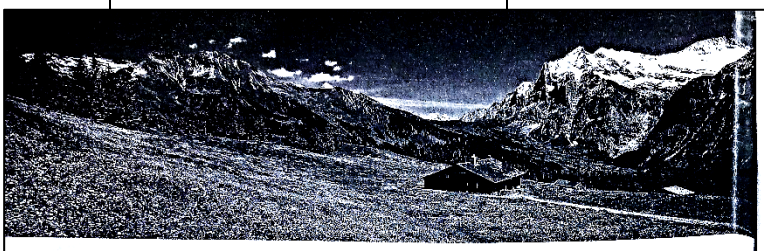
23 フーバーさん

和子さんは、学校が終わると、大急ぎで家に帰りました。今日は、お父さんの友達のフーバーさんが、家に遊びに来るのです。フーバーさんは、スイス人で、貿易商社マンとして、世界中をかけめぐっています。和子さんは、スイスが大好きで、小さいころからあこがれていました。世界の旅行記を何度も読み、前から一度、いろいろとスイスの話を聞きたいと思っていました。

六時過ぎ、お父さんといっしょにやってきたフーバーさんは、

「こんばんは。はじめまして。和子さんですね。」





と言って、大きな手を差し出しました。和子さんがはずかしそうにその手をにぎるのを見て、お父さんもお母さんも大笑いです。

フーバーさんからいろいろな国の話を聞いて、楽しい夕食のひとときが過ぎました。和子さんは、すっかり感激しています。

しばらくして、フーバーさんが和子さんにたずねました。

「ところで、和子さん。あなたは将来、日本がどんな国になったらいいと思いますか。」

和子さんは、すぐに答えました。

「もちろん、スイスのような国です。」

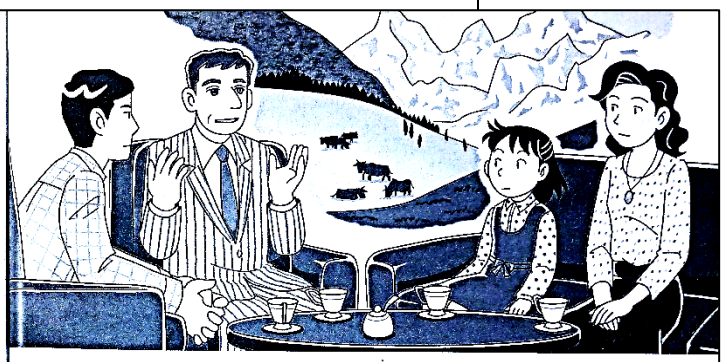
「それは、どうもありがとう。わたしの母国ですから、そう言ってもらえるのは、とてもうれしいのですが、……でも、それはなぜですか。」

「だって、自然がとってもきれいだし、戦争もなく、世界中でいちばん平和で、幸福な国でしょう。」

和子さんがそう答えると、フーバーさんは、ちょっと首をかしげながら、はっきり言いました。

「和子さん、それはちがいますね。」

和子さんは、びっくりしました。しかし、フーバーさんの話を聞いているうちに、すっかり考えさせられてしまいました。



「日本人は、スイスを理想の国のように思っているようですね。それはとてもうれしいことなのですが、大きな誤解があることも事実なのです。

確かに、スイスは、アルプスの山々とすばらしい自然に囲まれた国です。しかし、山に囲まれた国でのくらしというものは、そんなに楽なものではありません。日本の四季に比べて、スイスの気候はとてもきびしいのです。スイスの産業は酪農や時計が有名ですが、周囲を山に囲まれたわたしたちの国では、それしかできなかったのです。

それから、和子さんは、スイスが平和だと言われましたが、おそらく、それはスイスが永世中立国だからという理由でしょう。しかし、フランス・イタリア・ドイツ・オーストリアといったヨーロッパ諸国に囲まれたスイスは、何百年も前から、戦争と侵略のくり返しによるひげきの道を歩んできました。そのことは、スイスには公用語が四つあるということにも表れています。ジュネーブ付近ではフランス語を、チューリッヒ付近ではドイツ語を、南のほうではイタリア語を、また、一部の地域ではロマンシュ語を使っています。

そのように、スイスの平和は、周りの国々とのきびしい関係の中で、やっと保たれているのであって、中立というのは、戦争をしないということではなく、周りの国が戦争しても、どちらの味方にもならないということなのです。

自分の国のことを悪く言うつもりはありません。しかし、このことは、わたしたちスイス人がいちばんよく知っていることです。それを、なぜ和子さんは、スイスを理想の国というのでしょう。

フーバーさんは、ちょっときびしい顔つきで、和子さんのほうを見ました。和子さんは、今までスイスという国について、よく理解していなかったということをはずかしく思いました。フーバーさんの話には、今までに読んだ旅行記には出ていないスイスの本当のすがたがあったのです。

その日の夜、和子さんはフーバーさんと会えて、スイスの本当のすがたに近づくことができたと思いました。そして、こうしたことが外国との親善につながっていくのだと思いました。

●編集委員会 作

後半

前半

2・3 本時	『タンザニアを知ろう』 タンザニアについて、日本と違う点同じ点の両面があることに気づく。	1　本時のめあてをとらえる。 　タンザニアの生活道具「キヌ、ンチ」と日本の「すり鉢」との比較 　→「タンザニアと日本と比較して違う点・同じ点を見つけよう」 2　写真やビデオ（施設や生活用品等を中心に）から、違うところ、同じと思うところを書き出す。 3　グループ内で互いに話し合い、その後全体で共有する。 4　見方や考え方次第で共通点が見つけられることを振り返る。	・　キヌ、ンチ、すり鉢 ・　写真、ビデオ
	『タンザニアを知ろう』 タンザニアの小学生と日本の小学生の生活について共通点がたくさんあることを知る。	1　グループごとに、エピソードが書かれた紙片をタンザニアと日本それぞれに振り分ける。※どうしてそう思ったかを押さえる。 2　グループごとに発表し、最後に答え合わせをする。 3　同じところがたくさんあることを振り返る。 4　写真やビデオを見る。（タンザニアの人を中心に）	・エピソード紙片 ・感想用紙 ・写真、ビデオ
4	『「世界の未来と日本の役割」～現地に根付いた支援～』 日本が行っている NGO、ODA を調べることを通して、日本が行っている国際協力の今やこれからを考える事ができる。	1　日本が過去にうけてきた海外からの支援の様子の写真を通して、国際社会の中で、日本は助けられながら今日に至る事を知る。 2　本時のめあてを捉える 3　日本が行っている NGO、ODA についてインターネットで調べる。 4　発表する。 5　教師からタンザニアでの事例を聞く。 ・JICA の無償資金協力プロジェクト「タザラ交差点改善計画」 ・バニラ事業 ・青年海外協力隊活動の様子 5　振り返り 国際協力のこれからについて自分の考えを書く。	外務省ホームページ

【6】本時の展開（２時間目）

本時のねらい：タンザニアの写真から、グループでの話し合いを通して、日本と違う点、同じ点を見つけることができる。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (10 分)	1　キヌ、すり鉢を比べて自分の感想を持つ。 2　本時のめあてをとらえる。 同じ・ちがうを見つけよう 3　グループごとに、タンザニアの写真を見て同じこと、違うことを話し合う。 	○　見比べているときのつぶやきを多く取り上げ、たくさんの見方や考え方をしている点を大いに称賛することにより、多様な見方の価値付けをする。 ○　道徳でスイスを２つの側面から捉えた図を想起させながら、児童の気付きを「同じ」「ちがう」の２つの観点から整理してみせ、めあてへつなげる。 ○　Ａ３を２枚合わせた紙に写真を貼り、大きく余白をとり、そこに気づいたことをメモしていくようにする。	キヌ、ンチ、すり鉢、すりこぎ棒

展開 (20 分)	 	 ○　児童が自ら見て考えようとする姿を引き出すために、小さなことでも積極的に称賛していき、自信を持たせるようにする。 ○　各グループでてきた疑問などに答え、写真を撮ったときの様子などを補足することで、興味関心が高まるようにする。	
まとめ (15 分)	4　発表する。 5　振り返りをする。 質問や感想を出し合う。	○　それぞれの発表や質問をこまめに称賛し、自信が持てるようにする。正解があるわけではないので、視点を持てたことを称賛する。 ○　グループ以外の子による新たな視点からの感想を「なるほど。」と共有する場にする。	

【7】評価規準に基づく本時の評価方法

各グループで、「同じ」「ちがう」という視点から気付きをしているか、話し合いの観察と気付きのメモの内容によって評価した。

【6】本時の展開（３時間目）

本時のねらい：エピソードを読んで、日本・タンザニアどちらのものか考え、話し合うことを通して生活の中にも相違点だけでなく共通点があることに気づくことができる。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点	資料（教材）
導入	1　めあてをとらえる。 「クイズです。この話は、日本かタンザニアどちらかです。どちらでしょうか。この時間はどうしてそう思うの？という理由をみんなでよく考えてほしいのです。」 どちらのエピソードか考えよう。 2　グループごとに、異なるエピソードについてどちらのものか話し合う。 【楽しかったこと】 学校の帰りに友達とより道をすることがあって、それが楽しかったです。 日本では、寄り道はだめだから、これはタンザニアじゃない？ 3　グループごとに自分たちが受け取ったエピソードを紹介し、理由について発表する。 4　振り返り	○　一つのエピソードを紹介し、日本かタンザニアか問いかけ、理由も引き出すことで、本時のめあてへとつなげる。 ○　理由を考えたことなど、グループごとによさを称賛する。 ○　児童の発表から、日本とタンザニアの生活の中には共通する部分もあることに気づかせる。	エピソードカード（文末参考資料）

【7】評価規準に基づく本時の評価方法

エピソードについて、日本かタンザニアを考えるとき、自分なりの理由を述べているか観察によって評価をした。

【8】学習方法及び外部との連携

○　フォトランゲージ

本時では、写真を提示して、そこから「同じ」「ちがい」を読み取る活動をした。その際、使用したのが、タブレットである。タブレットのよさは、児童が興味を持った部分を拡大するなど、自由な見方ができることである。また、テレビでも大きく見せ、全体で共有できるようにした。このため、児童たちは細かい部分までよく見て気付き、写真から多くを読み取って考える事ができた。

実際、写真から現地の女性が持つ袋に目をとめた児童がいた。その気付きから、タンザニアではレジ袋の持ち込みが禁止されていることを紹介することができた。

○　ものランゲージ

物は、観るだけでなく触ることもできるのが、フォトランゲージに比べてのよさである。触ったときの感覚は児童の五感を大きく刺激する。本時では、児童がキヌやすり鉢を触って、実際にごまをすったりつぶしたりしてみて、体験を通した気付きをもつことができた。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

○　掲示

６年生の授業が近くなってからは、６学年の廊下にタンザニアの教科書や布、地図等を展示した。また、図書室前の廊下など、全校生が通る場所に、キヌ・ンチを展示し、コショウの粒を置き、自由につぶす体験ができるようにした。

○　自分が出会ったタンザニアの紹介

パワーポイントで作成し、休み時間を利用して児童に見せ、研修での出来事などを話して聞かせた。タンザニアクイズなどを盛り込むことで、楽しくタンザニアに触れることができた。

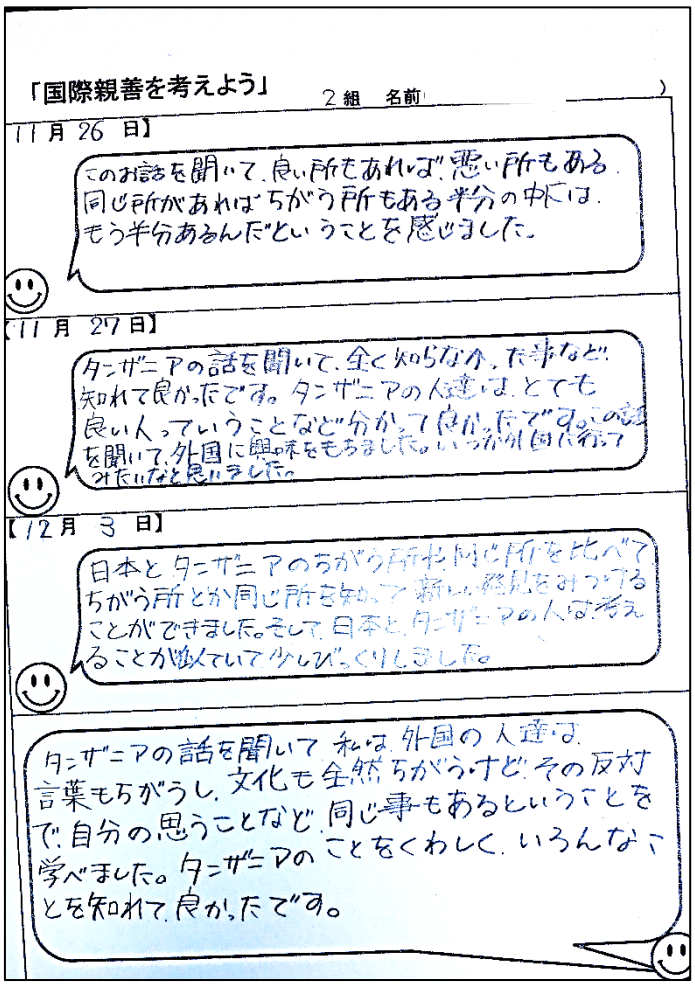
○　調理体験

昼休みに、ウガリづくりを試みた。調理法が児童にとって新鮮らしく、楽しそうにこねていた。味は、苦い等いまひとつの反応だった。やはり、付け合わせが必要だった。まずいという印象をもたせてしまったのが失敗であった。児童に受けない味についての取り扱いは、丁寧に進める必要があった。

【自己評価】

11. 苦労した点	○　実態把握 　今回は、自分の担任する支援学級児童と共に、協力学級での実践だった。そのため、児童の実態がよく把握できなかった。どの児童がどのような反応をするのかは、実際に自分が授業をしてみないと分からないものだからだ。そのため、事前に授業ではなく、朝の会で５分ほど時間をいただき、協力学級で簡単なゲームなどをしながら実態把握に努めた。 ○　絞ること 　学習の目標・内容をどう絞っていくかに悩んだ。今回の研修でのあまりに多くの学び、学習指導要領、TICAD の開催・・・、児童に触れさせたい学びがたくさんあった。そんな中、今の児童に合ったテーマが道徳の教材だった。外国を理解する上で欠かせない要素がそこにはあり、一貫した「国際親善で大切なこと・・・」というテーマとして絞って設定することができた。その後の総合的な学習の時間、社会科へと自然な流れでこのテーマを発展させていくことができた。
12. 改善点	○　時間配分 　見たり、体験したりする活動に時間をかけたため、後半のまとめ、振り返りができなくなってしまった。授業前に十分見たり触ったりできる場を作っておくことで解消できるかもしれない。 ○　振り返り 　本時では、振り返りの時間が十分に確保できなかったが、児童にとって新鮮な学びとなることから、十分に時間を取り、児童の言葉を紡いで全体で共有できるとよかった。
13. 成果が出た点	○　児童の興味関心の広がり 　本時で、タンザニアを取り上げたことで、アフリカやタンザニアへの関心は高まったようだ。展示してある物について、値段や使い方について質問をしてくる児童がいたり、授業を行っていないクラスの児童が、授業を行った友達から聞いた話で質問してきたりするなどの姿が見られた。 ○　物事の見方・考え方 　今回、道徳で示した図を児童と共有できるようになった。それは、一面的な見方・考え方にとらわれず、多面的に物事を考えていこうというイメージを持てる図となり得たと感じた。この図が道徳、総合的な学習の時間、社会科で登場したことで、これからの、物事の見方・考え方に役立って行くと期待される。

14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）



「国際親善を考えよう」　2組　名前（　　）

【11月26日】

このお話を聞いて、良い所もあれば、悪い所もある。同じ所があればちがう所もある半分の中には、もう半分あるんだということを感じました。

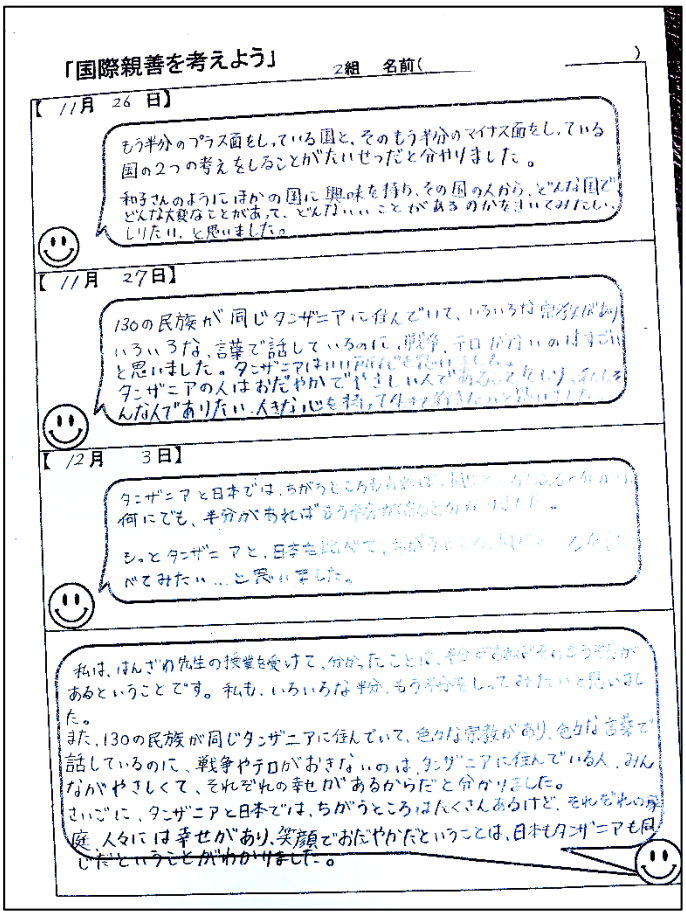
【11月27日】

タンザニアの話を聞いて、全く知らなかった事など、知れて良かったです。タンザニアの人達は、とても良い人っていうことなど分かって良かったです。この話を聞いて、外国に興味をもちました。いつか外国に行ってみたいなと思いました。

【12月3日】

日本とタンザニアのちがう所や同じ所を比べてちがう所とか同じ所を知って新しい発見をみつけることができました。そして、日本とタンザニアの人は考えることが似ていて少しびっくりしました。

タンザニアの話を聞いて私は外国の人達は言葉もちがうし、文化も全然ちがうけど、その反対で、自分の思うことなど同じ事もあるということを学べました。タンザニアのことをくわしく、いろんなことを知れて良かったです。



「国際親善を考えよう」　2組　名前（　　）

【11月26日】

もう半分のプラス面をしている国と、そのもう半分のマイナス面をしている国の2つの考えをしることがたいせつだと分かりました。

和子さんのようにほかの国に興味を持ち、その国の人から、どんな国でどんな大変なことがあって、どんないいことがあるのかをきいてみたい、しりたい、と思いました。

【11月27日】

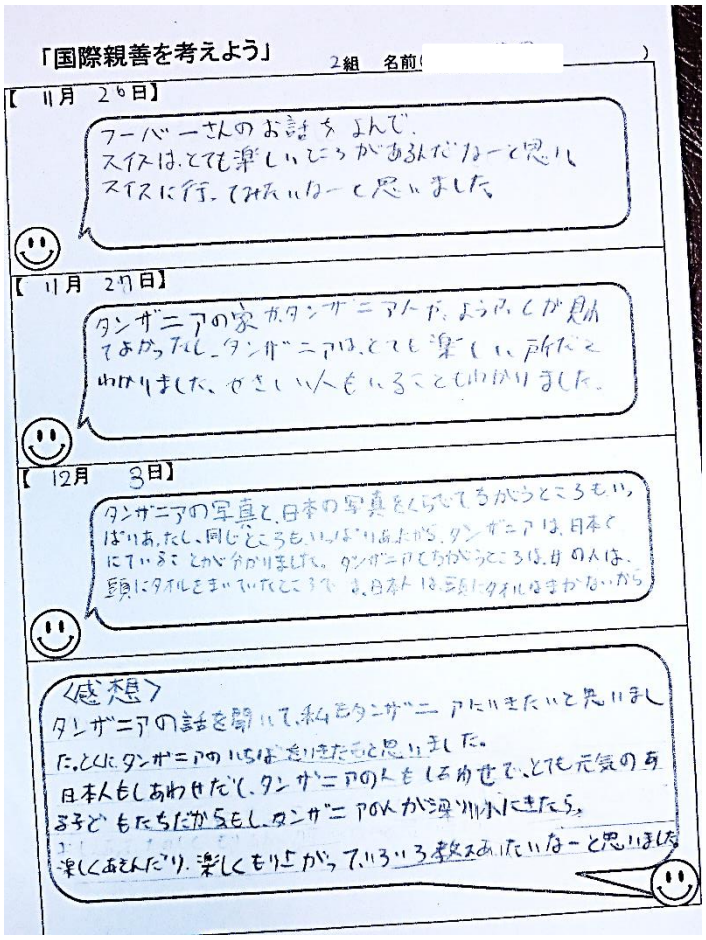
130の民族が同じタンザニアに住んでいて、いろいろな宗教があり、いろいろな言葉で話しているのに、戦争、テロがないのはすごいと思いました。タンザニアは[illegible]所だと思いました。タンザニアの人はおだやかでやさしい人であるとわかり、私もそんな人でありたい、大きな心を持ってタンザニアに行きたいと思いました。

【12月3日】

タンザニアと日本では、ちがうところもあるが、同じ[illegible]なるところがあり、何にでも、半分があればもう半分があるとわかりました。

もっとタンザニアと、日本を比べて、ちがうところや同じ[illegible]べてみたい…と思いました。

私は、はんざわ先生の授業を受けて、分かったことは、半分があればもう半分があるということです。私も、いろいろな半分、もう半分をしってみたいと思いました。
また、130の民族が同じタンザニアに住んでいて、色々な宗教があり、色々な言葉で話しているのに、戦争やテロがおきないのは、タンザニアに住んでいる人、みんながやさしくて、それぞれの幸せがあるからだと分かりました。
さいごに、タンザニアと日本では、ちがうところはたくさんあるけど、それぞれの家庭、人々には幸せがあり、笑顔でおだやかだということは、日本もタンザニアも同じだということがわかりました。

<table>
<tr>
<td></td>
<td> 
「国際親善を考えよう」　2組　名前（　　）
【11月 26日】
フーバーさんのお話をよんで、
スイスは、とても楽しいところがあるんだなーと思い
スイスに行ってみたいなーと思いました。
【11月 27日】
タンザニアの家がタンザニアだったようすが見れてよかったし、タンザニアは、とても楽しい所だとわかりました。やさしい人もいることもわかりました。
【12月 3日】
タンザニアの写真と、日本の写真をくらべてちがうところもいっぱいあったし、同じところもいっぱいあったから、タンザニアは、日本とにていることが分かりました。タンザニアとちがうところは、男の人は、頭にタオルをまいていたところです。日本人は、頭にタオルをまかないから。
〈感想〉
タンザニアの話を聞いて、私もタンザニアにいきたいと思いました。とくに、タンザニアのいちばんのりきたいと思いました。
日本人もしあわせだし、タンザニアの人もしあわせで、とても元気のある子どもたちだからもし、タンザニアの人が海や川にきたら、楽しくあそんだり、楽しくもり上がっていろいろ教えあいたいなーと思いました。</td>
</tr>
<tr>
<td>15. 授業者による自由記述</td>
<td>〇仲介する者として
今回の実践において、子どもたちとの間に入る物や人次第で、その国の第一印象が大きく変わってしまうことを強く感じた。特に今回のように授業での取り組みとなると、その影響はさらに大きい。小学生という発達段階では、まず何を知るべきなのかと考えたとき、貧困問題ではなかった。タンザニアで出会った人達の笑顔、人柄などに心を打たれ、それを伝えたかった。直接そのことがテーマではなかったものの、児童の感想を読むと、そんな思いが少なからず届いていたようだった。</td>
</tr>
</table>

参考資料：小学校学習指導要領
道徳副読本（６学年）

エピソードカード

タンザニア？日本？	
【ドキドキしたこと】 一緒に遊んでいた友達が先生にしかられたので、ぼくもしかられると思ってドキドキした。	【お手伝い】 　お母さんが忙しいので、洗濯や食器洗いなんかは、自分がやらないと大変。自分の仕事だと思ってる。
【怖かったこと】 　弟が、大きな病院に運ばれていったので、死ぬんじゃないかと思って、とても怖かった。	【うれしかったこと】 　お父さんが、私の大好きな食べ物とケーキを買ってきてくれた。
【家の人にほめられたこと】 　お風呂掃除の手伝いをしてお父さんにほめられた。	【楽しかったこと】 　学校帰りによく寄り道するのが楽しいです。何か買って食べることもあります。
【家に帰ってから】 　着替えて洗濯をします。そのまま遊びに行っちゃうと怒られます。	【ペット】 　自分の周りには、ペットを飼ってる人がいないから、犬とかは、なんか怖いなあ。